

講師

文屋 典子

■ 学歴

1. 1994 年 3 月 関西学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士課程前期課程修了

■ 学位

1. 修士（社会学）

■ 研究分野

1. 社会福祉学
2. ソーシャルワーク方法論
- 3.

■ 研究キーワード

1. 子ども家庭支援
2. ファミリーソーシャルワーク
- 3.

■ 研究課題

1. 子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性
- 2.

■ 担当授業科目

1. ソーシャルワークの理論と方法 I
2. ソーシャルワークの理論と方法 II
3. 児童・家庭福祉
4. 子ども家庭支援論
5. 子育て支援
6. ファミリーソーシャルワーク論
7. ソーシャルワーク演習
8. ソーシャルワーク実習 I
9. ソーシャルワーク実習指導 I
10. ソーシャルワーク実習 II
11. ソーシャルワーク実習指導 II
12. 保育実習 III
13. 保育実習指導 III

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ】 ミクロ・メゾ・マクロ領域におけるソーシャルワーク実践と実践プロセスの展開、求められる技術について具体的な事例等を用いて説明した。ソーシャルワーク援助対象者の生活状況やニーズ・困難さをイメージしやすいよう、事例提示の方法を工夫した。毎回の授業終了後、コメントカードに授業のポイントを記入・提出を課し、学生の理解度や疑問・質問を把握した。コメントカードは翌週全員に返却するものとし、質問への回答や修正は手書きで記入すると同時に全学生に対する補足説明も行った。
2.	授業科目名【ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ】 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて、基盤理論やアプローチ成立の時代背景なども詳細に解説すること、事例提示の方法を工夫することを通して、アプローチ間の差異や固有の視点を理解することをめざした。毎回の授業終了後にコメントカードに授業のポイントを記入・提出を課し、学生の理解度や疑問・質問を把握した。コメントカードは翌週全員に返却するものとし、質問への回答や修正は手書きで記入すると同時に全学生に対する補足説明も行った。
3.	授業科目名【児童・家庭福祉】 現代社会における子どもと家庭をめぐる状況や諸問題、社会構造や人々の価値観の変化について具体的に引き上げ、子どもを権利の主体とする視点から子ども家庭福祉の理念と法制度やソーシャルワーク実践について理解することをめざした。毎回の授業終了後にコメントカードに授業のポイントを記入・提出を課し、学生の理解度や疑問・質問を把握した。コメントカードは翌週全員に返却するものとし、質問への回答や修正は手書きで記入すると同時に全学生に対する補足説明も行った。
4.	授業科目名【子ども家庭支援論】 既習の保育専門科目と関連づけて解説を行った。家庭を取り巻く社会的状況や生態学的視点、価値観の多様性にも触れつつ、子ども家庭支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに努めた。
5.	授業科目名【子育て支援】 既習の保育専門科目やソーシャルワークの実践理論に関連づけながら、事例検討を中心に授業を展開した。子育て支援実践を実際的に学ぶこと、子育て支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに重点をおいた。
6.	授業科目名【ファミリーソーシャルワーク論】 家族を取り巻く社会的状況との相互作用として家族の状況を捉えること、支援の展開について多角的に考察すること、ソーシャルワーク専門職に求められる現象の捉え方、様々なアプローチに基づく多様な分析枠組みを持つことの重要性に学生自身が気づくことを主軸として授業を展開した。
7.	授業科目名【ソーシャルワーク演習】 理論系科目より先行して学習する位置づけであるため、専門的な用語や概念についての説明を丁寧に行うと同時に、グループを活用して自分の意見をもつこと、表明すること、他者の意見を受け入れ、グループの話し合いをさらに発展させることができることを経験できるようグループの状況を見守り、時折介入しつつ授業を展開した。
8.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ】

	学生の社会性と専門性の未熟な部分を実習に臨むにふさわしい程度まで高められるよう、個別指導や日常的な関わりの中で繰り返し助言指導を行うよう心がけた。子どもの発達や特性、障害の理解、援助の実際について具体的なイメージを持てるよう教材を工夫した。
9.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】 実習生の学習準備性と実習計画について実習先実習指導者と事前打合せを行い、実習プログラムや事前学習の内容、学生の個別の状況を含めて情報を共有した。また実習終了後には実習期間中の学生の状況の確認、実習後の振り返りでの学生の学びや発言等について情報共有を行い、今後の実習に向けての考え方を確認した。
10.	授業科目名【ソーシャルワーク実習指導Ⅱ】 実習前の事前学習では個別指導を強化し、各自の関心事と実習で学びたいこと、準備性をふまえた上で実習目標をたて、各自が準備して実習に臨めるよう指導を行った。前期実習後の振り返りと課題の明確化のためのスーパーバイズに注力し、後期実習に向かう事前学習をサポートした。後期実習後の振り返りにおいては個別指導と並行してグループダイナミクスを活用した。
11.	授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅱ】 実習生の学習準備性と実習計画について実習先実習指導者と事前打合せを行い、実習プログラムや事前学習の内容、学生の個別の状況を含めて情報を共有した。前期実習終了後には実習先実習指導者より、指導者の考える学生に不足している部分と学生が自覚している自身の課題との乖離が生じており、実習指導者が実習指導を行ううえでの困難となっているとの相談を受け、後期の実習指導の方法や実習先実習指導者としての学生に対するスーパービジョンの進め方について協議を行った。
12.	授業科目名【保育実習指導Ⅲ】 視聴覚教材を用いて実習施設の役割・機能や対象者理解について知識を確認し、実習記録の方法については個別指導を強化した。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいても個別指導を重ね、学生の学びや課題の整理をサポートした。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1992 年 10 月	日本社会福祉学会	
2.	2001 年 3 月	日本キリスト教社会福祉学会	
3.	1991 年 11 月	日本ブリーフサイコセラピー学会	
4.	1998 年 11 月	日本家族研究・家族療法学会	
5.	1997 年 5 月	日本小児保健学会	
6.	2011 年 10 月	日本保育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					

2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2021年3月～	社会福祉法人あゆみの森たけのこ会	評議員
2.	2021年7月～	社会福祉法人栄光園	評議員
3.	2017年度～	特定非営利活動法人学童保育協会	福岡県放課後児童支援員認定

		福岡県委託事業	資格研修講師
4.	2024 年 7 月	北九州市指定管理者の評価に関する 検討会議	臨時構成員（福祉分野）
5.	2025 年 1 月	北九州市 親子ふれあいルーム運営 事業者選考委員会	委員長

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年度	学生募集委員	
2.	2024 年度	教育経費予算配分委員	
3.	2009 年度 ～現在に至る	吹奏楽部	顧問